

2018年1月 システム企画研修株式会社

弊社が、数多くのお客様のご支援・ご協力をいただいで開発をしてまいりましたエンハンス業務を革新するシステムの第1次システムが完成いたしました。

そこで、その成果をご披露いたしますと共に、最終的なゴールである自動化・半自動化の構想についてもご紹介いたします。

当セミナー開催の背景

1. エンハンス業務の現状認識

- ▶ ソフトウェア保守業務または維持管理業務（以下エンハンス業務と称します）は、開発と次の開発の間10年以上に亘って経営を支える重要な役割を担っているにも拘らず、その重要性を経営陣に認めてもらえず、以下のような現状となっております。

- 1) 予算も人員も投入されない。
- 2) そのため、担当は最低限度の要求対応が精いっぱい、対象システムの整備をしていく余裕がない。
- 3) 結果として、業務が体系化・見える化されずに「属人化」し各種の問題を起こしている。
- 4) その場限りの対応を繰り返す結果、業務の生産性が低く、変更要求対応に時間がかかるコストが肥大化する問題・障害を起こす、ことでシステム利用者にしわ寄せが行っている。
- 5) しかしその不当な実態は誰にも分からない状況となっている。



2. エンハンス業務革新システム開発の経緯

- ▶ これではいけないと、弊社では、各社のご協力をいただきながら、エンハンス業務の抜本改善を目指して以下のような活動を続けてまいりました。

SLCM研究会

- 2009年～2013年 エンハンス業務改善手法の研究会
- (株)データ総研・システム企画研修(株)の共同主催

SWEEPER 養成研修

- 2011年～2014年 エンハンス業務改善手法のリーダー研修
- (株)データ総研・システム企画研修(株)の共同主催

フォワード・コンソーシアムによる改善推進

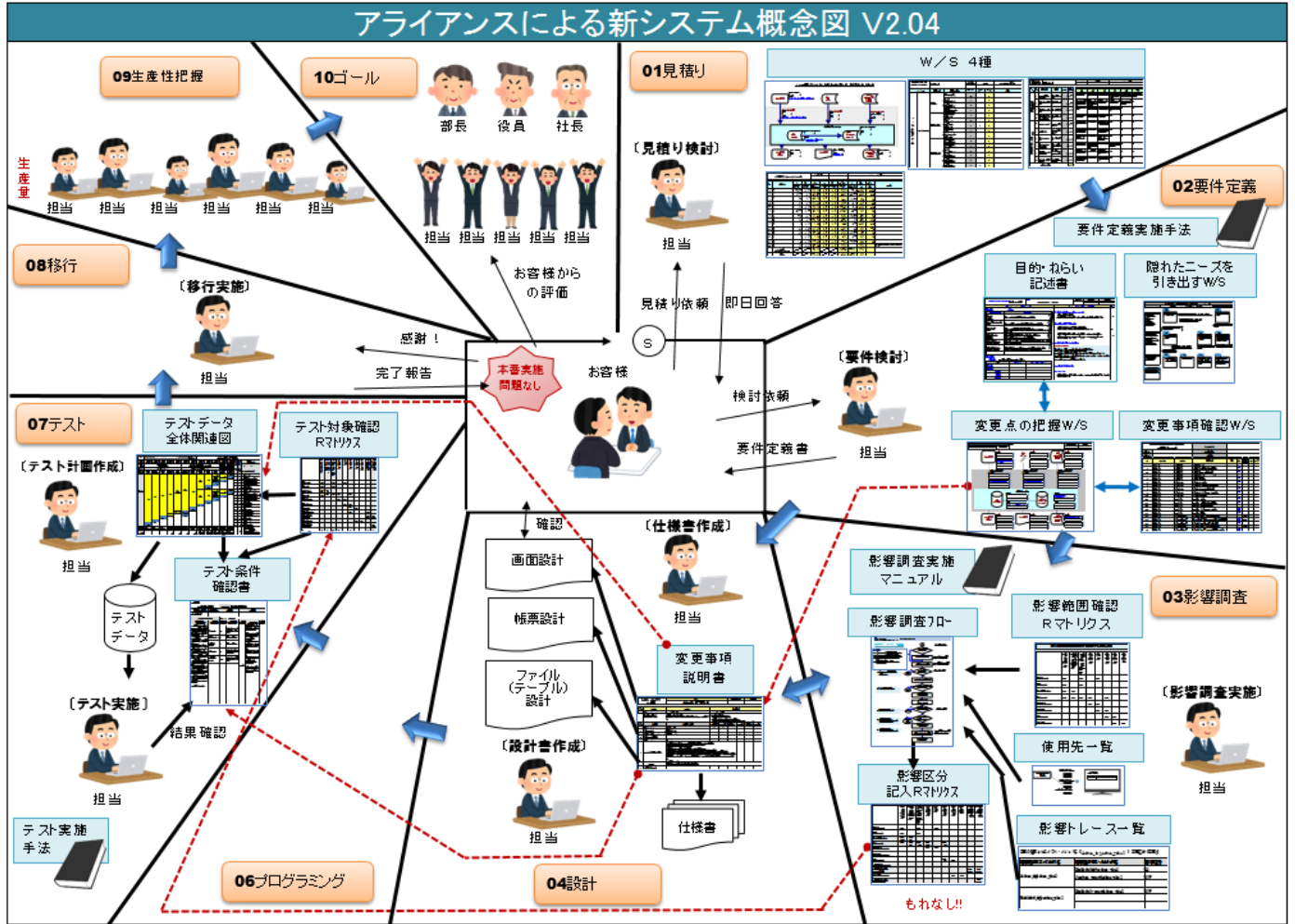
- 2015年～エンハンス業務改善推進共同活動（研修・研究会開催）
- システム企画研修(株)が事務局で約10社が参加

エンハンス業務革新システム共同開発アライアンス

- 2017年 数社が参画して今回ご紹介いたしますエンハンス業務革新システムを共同開発

3. エンハンス業務革新システムの第1次システム完成

- ▶ 前記アライアンスにご参画いただいた数社のご尽力により、以下のような第1次システムが完成いたしました。



- ▶ このシステムは、エンハンスの主要業務を対象に最終的には、以下を目指しています。

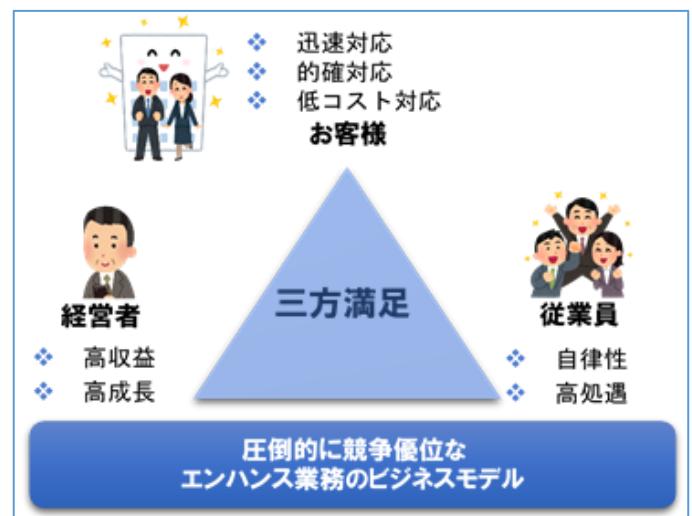
- ❖ 現状対比で工数半減
- ❖ 品質倍増
- ❖ 関係者満足度達成

- ▶ 現在完成した第1次システムは基本的には手作業ベースですが、以下を実現しています。

- ❖ 各プロセスの定型化・見える化の強化
- ❖ 各プロセス間の連携強化

- ▶ これから開発予定の第2次システムでは、以下を実現します。

- ❖ 各プロセスの自動化・半自動化



エンハンス業務革新システム 研究セミナー のご案内

1. 当セミナーの目的・ねらい (Why)

(1) このセミナーへのご参加目的

(1. 1) エンハンス業務発注企業殿にとって

- | | |
|---|---|
| ▶ エンハンス業務の積年の右記の問題を改善する方法があることを知っていただきます。 | 1) 時間がかかる。
2) コストが不明瞭
3) 障害発生が多い。
4) 作業が個人依存である。 |
|---|---|

(1. 2) エンハンス業務をビジネスにしている企業殿にとって

- | | |
|--------------------|---|
| ▶ 右記の方法を知っていただきます。 | 1) 個人依存でコントロール困難な業務実施方式から脱却できる。
2) お客様の不満を解消し、お客様の要求に的確・迅速に対応していただける方式が可能である。
3) 働き方改革が実現できる。 |
|--------------------|---|

(2) このセミナーの期待成果

(1. 1) エンハンス業務発注企業殿にとって

- 1) エンハンス業務の上記問題が解決するだけでなく、エンハンス業務の「見える化」により、委託業務の把握度・エンハンス業務に対する参画度・関与度を高めていただくことができます。
- 2) 内製化に対する前進も可能となります。

(1. 2) エンハンス業務をビジネスにしている企業殿にとって

- 1) エンハンス事業が量的に拡大するだけでなく、高収益の事業とすることができます。
- 2) お客様からも高い評価をいただけます。
- 3) 担当要員のモラルが大幅に向上して前向きになり、業務を改善していくことによってさらなる高収益を実現することができます。

2. 当セミナーの内容 (What)

- ▶ 次頁ご参照

4. 当セミナーの実施方法 (How)

- ▶ 14:00~17:00 「このセミナーの内容」の解説・質疑・意見交換
- ▶ 17:00~18:00 情報交換会

3. 当セミナーの対象者 (Where)

- ▶ 情報システム部門長殿およびその代理の方
- ▶ 情報子会社 社長殿およびその代理の方
- ▶ 情報サービス業 社長殿およびその代理の方
- ▶ このテーマにご関心ある方どなたでも

5. 当セミナーの実施時期 (When)

- ▶ 2018年2月22日(木) 14:00~18:00

6. 当セミナーのご参加料金 (How Much)

- ▶ お1人5千円(消費税込み)
(当日、受付にてお支払いください)

会場

システム企画研修(株) 研修室
東京都中央区日本橋小伝馬町 16-2
東事協ビル2階 電話 03-5695-3130
<http://www.newspt.co.jp/data/copr/map.html>

▶ 申込みへ

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/mktsemi.pdf>

2. 当セミナーの内容 (What)

(1) エンハンス業務の現状の問題点の解説

- ▶ エンハンス業務が経営上極めて重要な問題でありながら、改善されずに放置されてきたこととその原因、結果として業務実施方法が「見える化」されずに「属人化」していることなどについて解説します。

(2) エンハンス業務革新システムの第1次システムの解説

- ▶ 数社にご参画いただいて共同開発したエンハンス業務革新システムは以下の特長を持っております。その内容を具体的に解説いたします。

1) 革新的な方法を確立しています。

例 見積り手法は、要件定義・影響調査を実施しないで即刻見積りが可能でなおかつ見積り誤差は10%以内です。

2) 見積り、要件定義、影響調査、詳細仕様作成(設計)、テスト、生産性把握の各プロセスを対象とし、各プロセスのワークシートを体系化し見える化を実現しています。

3) 各プロセス間の連携性を強化し、部分的には半自動連携を実現しています(下図参照)。

(3) エンハンス業務革新システムの自動化・半自動化構想の解説

- ▶ 第1次システムは基本的には、手作業方式で、一部について自動化方法の仕様も記述していますが、自動化方式は実現しておりません。そこで、開発資金のめどがございましたら以下の点を中心に自動化を進める予定です。

- 1) 各プロセス成果物作成の支援および成果物間連携の自動化
- 2) テストプロセスの自動化

これが第2次開発の目玉です。



(4) 質疑・意見交換

- ▶ エンハンス業務について、発注側・受注側双方の立場から意見交換を実施していただきます。

7. 当セミナーの講師 (Who)

上野則男【エンハンス業務関連の略歴】

- ▶ 日経コンピュータ誌寄稿
2013年1月 「保守工数半減の勘所ー目的・ねらいの明確化が必須 ツール活用で作業を自動化」
- ▶ SLCM 研究会
エンハンス業務改善手法の研究会
2009年～2013年 (株)データ総研・システム企画研修(株)の共同主催：主査
- ▶ SWEEPER 養成研修
エンハンス業務改善手法のリーダ研修
2011年～2014年 主任講師
- ▶ JUAS主催セミナー
「ソフトウェア・エンハンス(保守)業務を日本のビジネス強化の切り札に！ーエンハンス(ソフトウェア保守)業務改善・改革の課題と解決方向ー」
2011年～講師

